

脳神経外科

(1) 2年間の初期研修で到達可能なレベル

医療は科学を基礎とする実学である。教科書を読み、疾患を覚えれば、事足り、というのは学生時代までであり、行為の実践を伴わなければ医療は意味をなさない。

脳は唯一、骨に囲まれている臓器である。それ故、ひとたび頭蓋内で疾患が発生すると閉鎖空間に存在する脳は押しつぶされ、不可逆的な損傷を伴う。脳は再生しない。病院に運ばれ、専門ではないので、別の病院に転送します、そして、間に合いませんでした、となったとき、その患者があなたの家族であれば納得できるであろうか。

脳神経外科研修では、穿頭術、開頭術ができるように指導する。必ずできるようになるまで指導する。実際の命を守る現場は、できる・できないを問われる次元ではなく、やるのかやらないのかを問われる厳しい世界であることを理解して欲しい。

2年間を通じて3ヶ月以上研修する場合は、マイクロ手術の助手として、手術に参加して貰う。勿論、脳神経外科の代表的疾患である、頭部外傷（急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫）、くも膜下出血、脳腫瘍、水頭症、慢性硬膜下血腫等の疾患は一通り主治医として経験して貰う。

何よりも上記の如く、脳の疾患の特異性、それに対応する医療人としての心構えを養成する。

(2) 後期専攻医(専門医研修)へのつながり

脳神経外科専門医を取得するためには、基幹病院の提供する研修プログラム内で研修する必要がある(5年間)。当科は京都府立医科大学脳神経外科を基幹病院とする群に属し、その研修病院となっている。当院での研修後に後期専攻医として当科に残る場合は、京都府立医科大学脳神経外科の研修プログラムに参加して貰うことになる。当院での研修を希望すれば、後期専攻医として1年から3年、研修を継続することが可能である。